



市民センターを楽しむ

まなびの カタチ

❀ すてきな花を咲かせよう ❀



仙台市教育委員会

目次 contents

市民センターで実際に事業に参画し、学びを楽しんでいる市民の方々の取り組みをご紹介します。
(令和6年度の活動)

P03

青葉区 〈青葉区中央市民センター〉

若者によるまちづくり実践塾 ※

P04

青葉区 〈柏木市民センター〉

防災デイキャンプ2024in通町小

P05

青葉区 〈北山市民センター〉

北山さんぽみち
ー過去から未来へ

P06

青葉区 〈旭ヶ丘市民センター〉

台原森林公園をまるごと楽しもう

P07

青葉区 〈折立市民センター〉

ライトアートin折立

P08

宮城野区 〈宮城野区中央市民センター〉

まいぷろ ※

P09

宮城野区 〈高砂市民センター〉

高砂の魅力再発見プロジェクト

P10

宮城野区 〈岩切市民センター〉

広がれ! スズムシの輪^{リー}

P11

宮城野区 〈榴ヶ岡市民センター〉

東口ゆうえんち

P12

宮城野区 〈幸町市民センター〉

日本全国幸町プロジェクト
ー#幸町でつながろう!

P13

若林区 〈若林区中央市民センター〉

仙白園プロジェクト・人 ※

P14

若林区 〈若林区中央市民センター〉

子どもイベントを考えよう
ーワイワイ!子どもまつり

P15

若林区 〈六郷市民センター〉

わたしのふるさとプロジェクト

P16

若林区 〈沖野市民センター〉

集まれ!わんぱくキッズ
ーお父さん出番です

P17

若林区 〈若林市民センター〉

みんなでウェルネス

P18

太白区 〈太白区中央市民センター〉

仙台学生ネットワーク事業 ※
つながりんぐ

P19

太白区 〈太白区中央市民センター〉

太白おやじネットワーク事業

P20

太白区 〈山田市民センター〉

楽元の森プロジェクト

P21

太白区 〈茂庭台市民センター〉

みんなの広場プロジェクト

P22

太白区 〈富沢市民センター〉

パワフルとみざわネットワーク

P23

泉区 〈泉区中央市民センター〉

ICP Izumi Community Project ※

P24

泉区 〈泉区中央市民センター〉

まちを知る 七北田を歩く
ー地域いきいきプロジェクト

P25

泉区 〈根白石市民センター〉

かむりの里・子育てプレイス
ー地域いきいきプロジェクト

P26

泉区 〈加茂市民センター〉

寄り合いアップデートラボ

P27

泉区 〈松陵市民センター〉

つながるプロジェクト

P28

泉区 〈松森市民センター〉

まち歩きをして地図を作ろう! 2024
ー地域いきいきプロジェクト

「まなびのカタチ」



人は生涯にわたって「まなび」を織りなしていく。

家族や友人、学校から教わることもあれば、本や経験から自分で学びとることもあります。子どもから高齢者まで、「まなび」は人それぞれにカタチがあり、内容も方法も変化していくものです。

そんな「まなびのカタチ」のひとつに、市民センターでの「まなび」があります。市民センターは市内に60館あり、毎年多くの方々に利用されています。

市民センターでは、

- ◆ 講座等を受講しての「まなび」
- ◆ サークル活動等での「まなび」
- ◆ 自ら講座の企画にかかわる「まなび」

と、様々なカタチで子どもから高齢者までが楽しく学んでいます。人それぞれの「まなび」が深まり、つながり、ひろがる楽しさのきっかけが市民センターにあります。

その中でも、市民が自ら企画し、自分たちの地域について考える講座、いわゆる「**市民参画型の講座**」が増えています。

みんなで話し合い、方法を探り、自分たちの企画を実行し、振り返り、より良い方法を考える…。時には失敗もあるかもしれませんが、失敗こそが新たな「まなび」をつくり出します。そして、成就感や達成感から、笑顔あふれる講座となっていくます。

**みんなと一緒に活動し、地域や社会で自分の力を生かすこと！
それが、市民センターが今オススメする「まなびのカタチ」です！**



◀1年間の「まなび」を発表する
成果報告会の様子
※詳しくはP29へ



事業概要

本事業は、若者が活動を通して、自己のものの見方や考え方を広げ、地域に対する関心を高めることができるよう支援し、将来の地域の担い手として自発的・主体的に行動できる「人づくり」をねらいとしています。令和6年度は、イベント実施を目標に2つのプロジェクトチームを作り「若者が地域・社会活動に参画するまち仙台」をテーマに活動を行いました。

令和6年度の活動

今年度は、大学生12名で活動しました。ニューススポーツ体験を通じた市民交流イベントと、自分たちと同じ世代を対象にしたガイドツアーイベントを実施しました。

【青葉区民まつり ニューススポーツ体験】

「全力で遊ぼう」という名前で青葉区民まつりにポッチャ・モルック体験ブースを出展しました。誰でも気軽に参加できるようにルールを工夫して実施しました。62組120名以上と多くの方が参加し、親子を中心に幅広い年代の方がニューススポーツを体験しました。色々な方との交流を通し、自分たちの活動を広報することができました。



【定禅寺通ガイドツアーイベント】

今回のガイドツアーは6名の企画者（ガイド）と県外から進学してきた3名の学生（参加者）の計9名で行いました。定禅寺通を中心に、仙台の魅力を伝えるためのツアーをしました。参加者と近い距離感で、仙台の魅力について伝え合い、自分が生活するまちに愛着を持ってもらえるようにプログラムを工夫しました。カフェでのトークタイムや、ガイドと参加者がペアになって活動することで、より深い交流を実現することができました。



成果と課題



どちらのチームもイベント実施に向け、話し合いを重ねそれぞれのねらいを達成するために、ルールやプログラムを工夫することができたのがよかったです。また、活動を通して企業やイベント参加者と交流を図ることもでき、今後の事業へのヒントを得ることができました。課題は、若い世代のイベント参加者を集めることに苦慮したことです。どのように「広報する」「発信する」のが良いのか、工夫が必要だと感じました。

今後の展望

イベント参加者の方に、仙台のまちに愛着を持ってもらえるように、自分たちの経験・知識をより高め、参加者の満足度を上げることができるようしていきたいです。また、イベントに参加することを目的に足を運んでくれるような付加価値をどのように付けるか検討していきたいです。





事業概要

令和6年度の仙台市の総合防災訓練の1つとして、「青葉区総合防災訓練」を通町小を会場として開催することが令和5年の12月に決まりました。このことを契機として、当市民センターから通町小おやじの会と通町小学校の校長先生に、「小学生親子の防災に関する企画講座を何か考えてみませんか」と提案したところ、賛同を得ることができました。おやじの会、先生方を企画員として本事業をスタートさせ、11月23日に開催予定の講座に向けて企画会を重ねました。



令和6年度の活動



4月から10月までに計5回の企画会を開催しました。第3回目からは、防災デイキャンプ当日のオープニングとエンディングを担当する防災ボランティアの東北福祉大学学生サークル「PASS」も加わり、当日の流れや企画員の思いを理解してもらいました。講座は11月23日（土）15時～19時、通町小を会場に開催し、小学生親子13組、31名が参加しました。「乾電池で火を起こそう」、「パーティーを組み立てよう」、「非常食を食べよう」、「暗い校舎で謎解き」の4つの防災ミッションにチャレンジしました。「暗い校舎で謎解き」では、おやじの会で「防災担架をつくってみよう」などの5つの部屋を、ジュニアリーダーが「防災モルック」を、先生方が「秘密の部屋を探し出せ」のブースを運営しました。最後の企画会を3月に開催し、令和6年度の振り返りを行いました。

成果と課題

防災ミッションの体験から、家庭での非常食の備蓄や持ち出しアイテムの見直しなど、参加者の防災意識を高めることができました。また、通町小おやじの会、通町小学校、PASSとの協働的な企画・運営を通して、顔の見える関係を構築することができました。

課題としては、小学生の親世代を企画員として巻き込んだ会議や講座運営において、時間の設定や情報の共有の難しさを感じました。



今後の展望



企画員が、様々な場面で活躍することにより、地域の防災活動や地域活動に関心を持つ住民が増えつつあります。また令和7年度の通町地区防災訓練に向けた検討会では、町内会未加入の方々や若い世代に参加してもらえるように、「まつり」の要素を取り入れた訓練を企画していく方向性について検討されました。通町地区防災訓練の企画運営には連合町内会や小学校、PTA、おやじの会等の協力と共に、地域の学校との連携を深め、若い世代や親世代も巻き込んだ地域活性化を促していきたいと思います。



事業概要

令和5年6月から7月にかけて「リンゴの唄の謎」と「北山稜線めぐり」をテーマに講座を実施し、参加者の中から市民企画員を募って「北山さんぽみち」の活動を開始しました。令和6年3月には「荒巻の思い出を辿る」という公開講座を企画実施し、その講座受講生からの新たな企画員が加わり活動しています。令和6年度は企画員のより深い地域学習を目指し、地域の魅力を発掘するため大人事業としました。時代による北山周辺の変化の様子を住民の視点で掘り起こし、記憶を伝え魅力あるまちづくりにつなげることを目標に、現在まで様々な場所を訪ねて学習しています。



令和6年度の活動



「北山五山さくら巡り」、「伊達藩火薬製造の地と高須家の墓」、「資福寺のあじさい鑑賞」など令和5年度の企画会で決定した企画員現地学習会の他、令和6年度の企画会で決定した「東北大学科学計測研究所の太陽炉模型・パネル見学」、「国宝大崎八幡宮と愛宕神社」、「仙台浅草までの川筋を辿る」などの企画員現地学習会を行いました。特に東北大学訪問では、昔三条町にあった太陽炉について事前学習を進め、東北大学片平キャンパスに普段は一般公開していない太陽炉の模型と説明パネルがあることを突き止め、見学することができました。そして、北山交流まつりでは学習した内容を展示発表し、地域の方々に広めることができました。

成果と課題

企画員現地学習会を重ねる中で、企画会議で調べた内容以外にも事前に現地の下見をしたり、また図書館で資料を調べたりするなど自主的に学習してから学習会に参加する方が増えてきました。講師から説明を聞くだけという受け身の姿勢ではなく、能動的に地域の魅力を学ぼうとする積極性や意欲を感じます。引き続き新たなテーマに取り組んで地域への理解を深めながら、その自主学習の成果をきちんと発信することも課題と捉えています。



今後の展望



今後も散策や企画会議などを通して地域の魅力を発見し、伝え、魅力あるまちづくりに向けて人材育成を行っていきます。今年度の事業で興味・関心が高まった北山市民センター周辺の昔の川筋を中心として、それに関連するへくり沢や四ツ谷用水などを辿って再学習することと、今年度も参加した北山交流まつりに令和7年度も参加することを計画しています。年度当初から内容をじっくりと話し合い、学習した地域の魅力を伝えていきます。



事業概要

「台原森林公園の地図が欲しい」と問い合わせがあった際に古い地図しかなく、利用者に渡すことができませんでした。そこで、台原森林公園を散策し地域の自然を知り、いずれは森林公園の魅力を発信することを目指し、令和4年度に地域の魅力・自然に着目する講座としてスタートしました。散策・講話・自然素材を使った工作などを通し、森林公園の魅力を再認識し、環境について考える機会となりました。令和5年度に散策内容をまとめる過程で「学んだことを発信したい」という意見から、令和6年度より本格的に地図を作成することになりました。



令和6年度の活動



令和6年度は5月から2月までの全10回を実施しました。どのような地図がよいか方向性を共有し、実際に散策しながら東屋や案内版、水飲み場などを確認しました。改めて細かく確認していく中で「こういうものがあったら良い」、「ここを直して欲しい」という意見が出され、台原森林公園に対する企画員の深い思いを感じました。また、等高線付きの地図を参考にしたいという企画員の声から、東北大学オリエンテーリング部の大学生を講師としてお招きし、地図の話だけでなく普段の活動や作成する地図にどんな項目があったら嬉しいかなど、若い世代の意見を参考にする場となりました。これまでの活動を受け、幅広い世代が楽しめる地図を目指して作成しました。

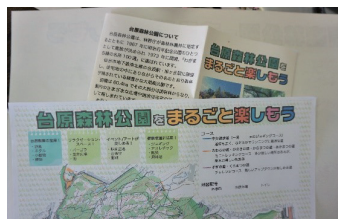
成果と課題

散策や講話、工作などを通し、台原森林公園の魅力を体感していく中で、自主的に学んだことをまとめたり、積極的に地図作りをしたりする企画員があり、講座中だけでなく、講座以外での学びにも繋がっているのが大きな成果だと考えています。

課題は、作成中の地図が企画員の単一的な視点に偏らずに作成することです。どの年代にも喜ばれるように、内容・レイアウト・フォントにこだわって作成していきます。



今後の展望



地図完成後は窓口での配布に加え、地図のお披露目を兼ねた散策会を行う予定です。それらの活動を通し、地図の活用と台原森林公園の魅力を発信していきます。台原森林公園の四季折々の自然を感じ、公園の魅力を知った企画員が、その魅力を知って欲しいという思いから地図を作りますので、ぜひ様々な方に地図を片手に台原森林公園を散策してもらいたいと考えています。



事業概要

平成28年度から活動している折立素敵物語実行委員会では、折立学区の立体地形模型などを制作し、それらを使って折立小学校で出前授業を実施するなど、若い世代にも地域に関心を持ってもらえるよう活動を行ってきました。

令和元年度には折立小学校6年生の授業「町の幸福論」で発表された小学生のアイデアから、地域活性化を目的として、折立公園で光をモチーフにしたイベント「ライトアートin折立」が初めて開催されました。今年度で6回目を迎え、折立地域の冬の風物詩として欠かせないイベントとなっています。



令和6年度の活動



今年も折立市民センター主催事業「おりたてZ世代プロジェクト」の中高校生企画員が、来場する小学生のために3つのコーナーを企画・運営しました。会場内にキーワードを隠し、小学生が探し当てる「キーワードラリー」や「折り紙リース作り」、「ランタンツリーお絵かき」のワークショップで盛り上げてくれました。また、イベント当日までの準備では、運営委員の皆さんで池の中の「葦刈り」を重ね、池に映るイルミネーションの輝きがさらに増すよう環境整備に力を入れました。イルミネーションやランタン、ピカボードが相まって幻想的な世界を作り出しました。

成果と課題

11月30日のイベント当日は、約2,000人の来場者があり、イルミネーションのトンネルやランタン、ピカボードなどの美しさに感動の声が上がっていました。昨年から折立中学校の協力により実現した中学校の校舎屋上からの会場観覧には、約300人のご来場をいただき、中学校のPTAによる校内での誘導や案内などの協力もありました。

このように、地域の学校・地域団体などの協力により進めている本事業は、幅広い世代の地域住民や、大学生ボランティアなど、合わせて100名以上のスタッフが関わっています。この地域の繋がりを強固にし、今後もこのイベントを持続させていくことや折立素敵物語実行委員会の後継者育成が今後の課題となっています。



今後の展望



課題解決のためには「おりたてZ世代プロジェクト」の企画員をはじめとする地域の子供達が様々な場面で活躍することで、地域活動に関心を持つ住民が増えるような仕組みづくりができればと思います。小学校や中学校のPTAとの結びつきをさらに深め、次世代の地域を担う人材の育成に繋げていくとともに、若い世代からの地域活性化を促していきたいと思います。



事業概要

若者世代の高校生が企画員となり、まちの魅力を取材してWeb記事の制作と発信を行います。参加した企画員が、様々な人々と協働する経験をとおりて地域に貢献し、身近な地域をより良くすることへの関心を高めていくことをねらいとしています。社会・地域の一員として、自発的・主体的に行動できる人づくりを行う事業です。

まちの魅力
(取材)若者
(高校生)Web記事
(発信)地域に
貢献!

令和6年度の活動

尚絅学院高校と宮城野高校、仙台第三高校の1・2年生10名が企画員となり活動しました。企画員は、WebニュースサイトTOHOKU360の編集デスク佐藤和文さんから、取材活動の基本（取材方法と記事の書き方など）について学びました。興味関心から4チームに分かれて取材先を決め、それぞれに伺って取材活動を行いました。取材後は、講師の佐藤さんに助言をもらいながらチームごとに記事を執筆・校正し、完成した記事はTOHOKU360のWebサイトで順次発信していきます。

雀屋本舗

横山かまぼこ店



東仙台の古着と喫茶

喫茶ツイデ



社の都バイオマスエナジー

蒲生なかの郷愁館



ハンバーグステーキと洋食のお店

BIG MOUTH2



成果と課題

企画員の高校生に、まいぷろに参加して実感したことを聞いてみました。

成 果 ～成長できたこと～	課 題 ～こうしていきたいと思うこと～
・コミュニケーション能力 ・人前で話すことの抵抗が少し減った ・実際に目にしたこと、耳にしたことを言語化し、記事で表現できた ・自分の考えを伝える力がついたと思う	・これからはいろんな人と接していきたい ・人に分かりやすい文章をつくる練習をしたい ・大学に行った時に役立たせたい ・参加して意味が無いことはありえない、意味を見出すのは自分次第

今後の展望

本事業で執筆されたWeb記事は令和2年度から掲載されており、TOHOKU360のサイト上で“高校生記者がゆく!”としてアーカイブされていて閲覧可能です。右下の二次元コードを読み取ってぜひご覧ください。

参加した高校生によって発信された記事から“まちの魅力”が多くの方に伝わり、より良い地域づくりのきっかけになることを期待しています。

まいぷろ記事アーカイブ（協力：TOHOKU360）▶



* 「TOHOKU360」は、東北の今をみんなで伝える住民参加型のニュースサイトです



事業概要

高砂地区は昔から米や魚の運送で栄えた緑豊かな田園地帯でした。歴史も古く、数々の遺跡も発掘されています。仙台新港の建設や都市整備計画などによりJRの駅の近くは都市化が進む一方、海沿いの地域は東日本大震災により、まちの風景がすっかり変わってしまいました。近年は被災地として語られることの多い高砂地区ですが、それだけではない魅力を地域住民と共に再発見し、広く発信していくことを目指しています。



令和6年度の活動



4月に高砂の地域を知るため地元の方の案内のもと、市民センターから七北田川沿いの桜並木を目指してまち歩きをしました。昔の写真と比較しながら当時の暮らしや思い出などを聞き、参加者たちは楽しく歩けました。

7月は地元のお寺へ行き、歴史についての話を聞いた後に写経体験をしました。しんとした静寂の中で行う写経は自分と向き合う良い機会となりました。

10月には高砂地域の地形を見ながら過去に起きた災害や今後起こりうる自然災害などを学ぶ講座を行いました。普段何気なく歩いている道にもかつての河川の氾濫の痕跡があり、そのことから将来的に起こりうる自然災害を予測し備えることが大切であると学びました。

12月には、震災以降に姿を変えた蒲生地区を地元の方に案内してもらいながら散策しました。

3月には、地名研究家を講師に招き、地名から探る岡田の歴史の講座を実施しました。

成果と課題

まち歩きや地元についての講座を行うことにより、参加者、企画員ともにその都度新しい発見があるようです。参加者の中にはリピーターも多く、「高砂」という地域に対して関心が深まった様子でした。しかしながら高砂の地域は範囲が広いので古くからある神社仏閣や遺物・遺跡などはあちこちに点在しており、なかなか取材やまち歩きによる見学等ができない状況です。また令和7年度は高砂市民センターが大規模修繕工事のため1年以上休館となります。今後どのような活動の方法があるのかが課題となっています。



今後の展望



令和7年度はこれまでの2年間に撮影した写真や地域の方から提供された写真などを活用して写真展示会を開催する予定です。この講座は「高砂のお役立ちMAP」を作成することを最終的な目標としています。そのため今後のまち歩きや地元にもつわるお話を聞きながら情報を集めていきMAP作りのための準備をしていく予定です。



事業概要

岩切市民センターを活動拠点とする「すずむしの里づくり実行委員会」は、仙台市の虫「スズムシ」を普及し、自生できる自然環境の大切さを多くの市民に啓発してきました。具体的には、飼育、出前授業、配布交換会、実験放虫、広報活動等の多岐にわたります。令和6年度で30周年となる活動ですが、高齢化が進み、次代の担い手育成が急務となっています。そこで、すずむしの里づくり実行委員会を中心とした企画員と一般の方で、スズムシを知り、親しみ、楽しむ中で、参加者同士の輪を広げ、担い手の発掘・育成へとつなぐことを目的に講座を展開しました。



リンリンちゃん

すずむしの里づくり
実行委員会
マスコットキャラクター

令和6年度の活動



企画会議では、実行委員会の活動を理解し、協力することができる地域人材の発掘として、学生ボランティアを募集すること、さらに令和5年度に引き続きスズムシ愛好家同士のつながりをつくることを目指すこととしました。

学生ボランティアに関しては、岩切中学校に働きかけを行ったところ、2名の生徒が快く引き受け、夏休み中のエサやりボランティアとして活動しました。また、横のつながりをつくることに関しては、11月19日にスズムシカフェを開催し、飼育に詳しい道の駅三本木の駅長、仙台市科学館の指導主事、展示にご協力いただいた近隣保育園の先生方をお迎えし、情報交換をして交流を行いました。

成果と課題

スズムシカフェの開催を通して、参加者同士がスズムシとの出会いや飼育上の悩み、スズムシの魅力を語り合う中で、互いにつながりを意識できるようになってきました。また、すずむしの里づくり実行委員会の取り組みにもご理解いただき、スズムシの輪を広げることができました。これからもスズムシの輪を広げていくには、活動に参加する枠組みづくり、楽しんで講座に参画してもらうきっかけづくりが大切です。令和6年度の活動を企画員とともに振り返り、令和7年度以降につなげていきます。



今後の展望



メンバーの高齢化が進むすずむしの里づくり実行委員会が、これからも持続可能な組織として維持され、今後も仙台市の虫「スズムシ」の普及活動に継続して取り組むことができるような仕組みを考えていく必要があります。令和6年度の活動を通してできた「つながり」を強化していくための楽しい取り組みや、より多くの市民に実行委員会の活動をPRし、スズムシの輪を広げていく取り組みを、企画員とともに実践していきたいと考えます。



事業概要

児童数が多い榴岡地区では、子どもたちが安心安全に遊ぶことのできる場が求められています。本事業は、家庭や学校では経験できない遊びを通して、学校や学年の違う子どもたち同士が一同に楽しみ、子どもたちとボランティアスタッフの異世代交流を行うことで、子どもたちの“人間関係を築く力”を養うことを目指して開催しています。講座として15年以上の歴史があり、令和3年度から宮城野区中央市民センターと共催で実施しています。



令和6年度の活動



高校生から社会人までの企画員が、子どもたちが楽しめる遊びを考えながら企画運営を行っています。令和6年度は12月までに企画会を9回、イベントを2回開催しました。

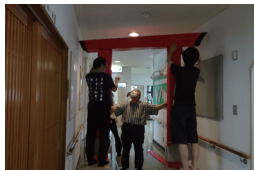
● **東口縁日** 7月7日(日) オリジナル通貨「イースト」を使って企画員手作りの遊びや食べ物を楽しむ夏のイベント「東口縁日」を開催しました。「買い物やお金の勉強ができる遊びがあったら嬉しい」という昨年度の保

護者アンケートを参考に発案された企画です。遊びや食べ物を何にするかを考えるだけではなく、残った「イースト」で1番楽しかった遊びを最後にもう1度できるという工夫がされており企画員のアイデアがいかされたイベントとなりました。

● **超(スーパー)めいろランド** 11月24日(日) 昨年度に引き続き今年度も段ボール迷路のイベントを開催しました。メインとなる、先が見えないほどの大きな段ボール迷路に加えて、トンネル型迷路も用意しました。その他にも新聞紙プールやお絵かきボード、イラスト探しを準備し、より遊園地を思わせる非日常的な空間を全て企画員の手作りで作り上げました。更に今回は事前準備と後片付けに参加していただける親子を募集し一緒に作業をするという新しい企画を考え、実行することができました。

成果と課題

令和6年度は新企画「東口縁日」を発案し、更に親子参加型の迷路製作や令和6年度榴ヶ岡市民センターまつりへの参加を通して東口ゆうえんちをより地域に広めることができました。また、参加する企画員が固定化していることから、新規企画員の増員や定着をどう広報していくかが課題となっています。



今後の展望



2月16日(日)には恒例の「真冬のおぼけやしき」を開催しました。企画員の経験とアイデアを活かしながら、コロナ禍前の要素も復活させて実施しました。令和7年度も子どもたちに楽しんでもらえるようなイベントにするために、事業の目的を再確認しながら新しい発想を大切に企画を考え、事業を継続していく予定です。

幸町市民センター
HP

事業概要

「幸せな町になってほしい」との願いが地名にこめられた「幸町」の地域を知り、他地域の「幸町」とつながるために企画員が会議を重ねてきました。令和5年度は自分たちの地域を知ろうと活動してきましたが、令和6年度は、他地域とつながるための方法を学び、他地域とつながり、地域の魅力を発信し、地域活性化を図ることを目的として事業を展開しました。



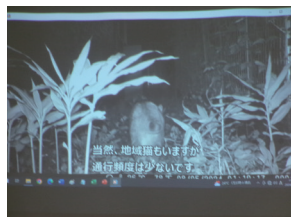
令和6年度の活動



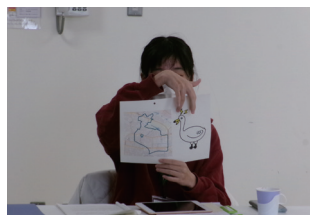
「幸町」の魅力を発信するために、SNSによる情報発信方法について、インスタグラマーとして活動している青沼彩織さんから学びました。自分たちが推す「幸町」のスポットを写真で撮影した際、写真の見栄えがよくなるように「#幸町♥gram」というオリジナルフォトフレームを制作しました。「幸町」の魅力をまとめたガイドマップ作りも進行中です。また、企画員の自宅の裏庭にトレイルカメラを設置して撮影した野生動物を撮影・編集しました。「#幸町♥gram」のフォトフレームを使用した写真とトレイルカメラの映像は、幸町市民センターふれあいまつりに展示して、大変好評でした。また、幸町中学校区エリアが鳥の形に似ていることから、中学生の企画員が白鳥をモチーフにしたオリジナルキャラクターを考案し、「#幸町」の活動を盛り上げているところです。

成果と課題

当初SNSによる発信を目指したものの、市民センターとして発信するには制約が多く、すぐにとりかかえることはできませんでした。しかし、自分たちですぐできることとして「#幸町♥gram」のフォトフレームを使用した幸町の魅力を市民センターまつりで展示するなどの活動を通し、メンバー同士結束を高めることができました。現在、幸町の魅力をまとめたガイドマップを作成中です。令和7年度に完成予定です。



今後の展望



最終目標として、「幸町」の魅力を他地域に発信し、「幸町」地域の活性化を目指しています。令和7年度も、SNSによる情報発信を目指しながら、ガイドマップを完成させたいと考えています。さらに、ガイドマップを地域の小学生や住民に紹介する案や、「幸町」の魅力をカルタや紙芝居にして紹介するという案も出ており、「幸町」がさらに幸せな町になるように地域の魅力を発信する活動に取り組んでいきたいです。



事業概要

「若者の発想」をもとにして活動を計画します。たくさんの人と関わり、学び、仲間を増やし、自分も地域も笑顔になる活動を企画・実施します。今年度は、地域で行うイベントを秋と冬の2回開催することを目標に活動しました。活動を通して、地域・社会貢献と自分たちのスキルアップを目指しました。

令和6年度の活動

①荒町モルック大会

幅広い世代の交流する機会を持ちたいと、10月5日に荒町元気広場で「荒町モルック大会」の企画・運営を行いました。計画、チラシ作り、地域での宣伝、物品準備などをすべて自分たちで行いました。当日集まった8組16名の参加者は、初めは緊張した様子でしたが、次第にモルックの楽しさが広がり、予選の最後の方では、相手のプレーに拍手したり、相手に投げる場所を教えたりする姿も見られました。決勝リーグでは、年配の方、若者世代、小学生親子の対戦になり、互いに称え合う姿が見られ、ねらいとした幅広い世代の交流が自然と生まれていました。また、メンバーに茶道部がいることから、休憩タイムはお茶について学びながら一服するコーナーを設け、参加者同士が親交を深める姿が素敵でした。



②オリジナル楽器を作ろう

地域の子どもたちが交流するイベントを行いたいという思いから、2月2日に工作楽器作りイベントを実施しました。当日まで試行錯誤を繰り返し、工作の準備を進めました。当日は13組27名の親子が参加し、紙コップや割りばしなど、身近な物を使って工作楽器を作りました。最後にでき上がった楽器を使い、音楽に合わせて音を出しました。参加者全員に笑顔があふれていました。



成果と課題

年度末の卒業、進級に伴い、メンバーが減った中でのスタートでした。身近な人を誘い、一人一人声を掛けながら企画員を集めました。中には学生時代から参加し、社会人になっても継続して参加している人や、社会人になってから登録した人もいて、現在は大学生を中心に、高校生から社会人まで、幅広いメンバー18名で活動を行っています。荒町モルック大会をやり遂げたことで大きな達成感を味わい、工作イベントにも積極的に取り組むことができました。一方、年間を通して定例会の参加者が流動的になり、話し合った内容の積み重ねや情報の共有の仕方について課題が残りました。

今後の展望

今年度は、昨年度の企画を練り上げ、イベントを実施しました。2年間の課題と成果を踏まえ、今後も地域課題を捉えた活動を続けます。また、活動を続けながら若林区の若者事業の魅力を発信し、共に学ぶ仲間を増やしていきます。





事業概要

令和3年度から子どもイベントに特化した市民企画会議を開催し、管轄エリア内外の様々な地域や団体から企画員を募り、学校区を越えた交流の場を企画・運営しています。

各地域や各団体同士の情報共有や相互理解を促すとともに、子どもたちの健全育成につなげ、幅広く地域活動に携わる人材の発掘や育成を目指しています。

令和5年度からは複数年事業として取り組み、企画員の構成の幅を広げると同時に近隣の学校など周辺地域との連携も深めています。



令和6年度の活動



令和6年度は5回の会議を経て10月12日(土) 開催のイベント「ワイワイ!子どもまつり」の企画・運営を行いました。南小泉パパネット(おやじの会)をはじめ、町内会長など地域で活躍されている企画員が情報共有しながら会議を重ねました。また、新たに児童館職員が企画員に加わったことで、子ども目線の遊びの場の創出に向けた豊富なアイデアも生まれました。

イベント当日はそれぞれの得意分野を活かしたブースを設営し、子どもたちが大いに楽しみました。幼児教育課程を持つ専門学校に協力を仰ぎ、未就学児の遊びの内容を充実させることもできました。各団体同士のさらなる連帯感や絆が構築され、また、近隣の中高生にボランティアを依頼したことで、学校との連携も強化されました。

成果と課題

イベント当日は盛況で、継続を希望する声も多くいただき、企画員の次年度以降の意欲が向上しました。他にも、近隣の学校との連携を進め、市民センター事業に対する協力体制の強化につながりました。

今後は、子育てに関わる団体やサークルなど、地域で活躍する若い世代にイベントの企画員として協力していただけるよう、広報手段も工夫していきます。



今後の展望

地域の住民や団体の企画員とともにイベントを企画・運営していくことで、地域のネットワーク形成の糸口となり、地域の活性化や地域づくりに寄与していくことを目指します。

また、大人と子どもが楽しめる地域密着型のイベントを実施することで、双方が顔見知りとなり、活気あふれるコミュニティの醸成や更なる地域人材の発掘へとつなげ、地域に貢献していきます。





事業概要

六郷東部地域は、人々のつながりが強く、祭りや運動会などの行事では、老若男女が地域を挙げて参加し、絆を深めてきました。

しかし、東日本大震災により壊滅的な被害を受けました。転居を余儀なくされた方もおり、かつてのにぎわいは消え、人々のつながりは弱まりました。そこで、2014年、六郷東部地域に暮らしている人やゆかりのある人、思いを寄せる人が「わたしのふるさとプロジェクト」を立ち上げ、六郷地域の人々の交流やにぎわい再生を願い活動しています。



令和6年度の活動



毎月の定例会では、メンバー同士が地域情報を活発に交換・共有し、地域に根ざしたイベントの実現に向けて熱い議論を交わしています。7月には、かつて東六郷小学校で30年以上にわたり続いた夏祭りの伝統を受け継ぎ、「来てけさいん♪六郷東部夏祭り」を開催しました。世代を問わず400名以上の方々が集まり、地域伝統を継承し、交流を深める素晴らしい場となりました。3月には「第10回ふるさとにつどう鎮魂の花火」を開催しました。

成果と課題

夏祭りは、メンバー各自のスキルや人脈を最大限に発揮しました。その結果、開催目的に賛同する20以上の地域団体が結集し、夏祭りならではの屋台や演目に加え、東六郷小学校の思い出のメニューを提供するなど、六郷東部地域の自然や伝統を伝える工夫が随所に盛り込まれました。さらに、大勢の中高生・大学生ボランティアが運営に加わり、次世代の若者たちがイベントを支える姿は、地域の未来への希望を感じさせるものでした。



今後は、我々の活動を地域内外へいかに広く伝えられるかが課題です。メンバー自身が主体となつて、SNSを通じた情報発信や活動報告を行うことが理想です。

今後の展望



今後の展望については、3点あげられると考えます。

- ①メンバーが主体となり、SNSを活用して情報発信を行う。
- ②地域の諸団体を巻き込み、イベント規模をさらに拡大させる。
- ③わたしのふるさとプロジェクトが、六郷地域での様々な団体の核となり、次世代のリーダーとして地域活動を牽引する団体に成長する。

わたしのふるさとプロジェクトの活動は、六郷地域で広く認知されており、地域全体が応援し協力する姿勢が見られます。市民センターとしては、プロジェクトがさらに地域を支える団体として活躍できるよう、態勢を整え、発展させていきます。





沖野市民センター
HP

事業概要

小学生や小学生親子対象に様々な催しを行ってきた沖野地域の2つの「おやじの会」は今年度から統合し、地域のボランティア団体として活動しています。「子どもたちを楽しませながら、自分たちも楽しむ」姿勢は変わらず、令和6年度も「スポーツ鬼ごっこ大会」や「ドッジボール大会」など、小学生向け、親子向けのイベントを市民センターと一緒に企画・運営し、地域の活性化に貢献しています。また、年度末には統合した会の名前を沖野地区小中学生から募り、「沖野団dism」として歩み出すことが決まりました。



令和6年度の活動



「スポーツ鬼ごっこ大会」(6月29日開催)は、中学生もサポート役として参加し、スピード感のある面白いゲームで盛り上がり、最後はおやじたちのプレーで締めくくりました。「レジンアートでストラップづくり」(9月28日開催)は、15組の親子が参加、女子やお母さんたちが多く参加し、ものづくりを楽しみました。



12月15日は、「前に子ども相撲で食べたちゃんこ、おいしかったね」の発言から、コロナ禍前に若林区の全市民センターで実施していた「子ども相撲」を復活させることを目指し、その前段となるイベントを開催しました。学生力士の方に来ていただき、取組観戦や参加者挑戦コーナー、相撲の技の説明など、相撲に興味を持ってもらい、最後にちゃんこ鍋をいただいて、参加者の皆さんはとても喜んで帰られました。1月11日には「ソフトドッジボール大会」を開催しました。

成果と課題

「おやじの会」の活動が定例的となり、子どもたちを楽しませている一方で、なかなかメンバー増には結び付かず、一部の人材に頼っている傾向があります。市民センターとしては、事業を行うことで会の存在の周知に努め、メンバー募集の呼びかけには工夫が必要と考えています。



今後の展望



内容によっては、おやじの会と共にイベント運営のサポーターとして中学生にボランティア参加を呼びかけ、少子化の中での異年齢交流の場を増やす機会としたり、年齢・性別にこだわらないメンバー構成で地域活動に参加したりと、大人同士の交流も含め、さらに広く地域と関わる活動に発展していくことが望ましいと考えます。



事業概要

参加者が、それぞれ元気な心と身体を育むウェルビーイングを目指して、健やかで自分らしく、生き生きとした毎日を過ごすため、様々な学びの場を提供しています。参加者が主体的に学ぶように、やってみたいことを聞き取り講座に反映しました。講座を通して、仲間と学び合う楽しさを発見し、地域に還元できる人材の育成を目指しました。



令和6年度の活動



◆第1回『自分でできるリンパマッサージ』

脚のリンパの経路や筋肉の構造などを学んだ後に、リンパマッサージのやり方を指導してもらいました。免疫力アップと冷え性解消に効果があるとのことで、皆さん真剣に取り組みました。

◆第2回『ボランティアグループ「ほっこりサロン」』活動について

“ほっこりサロン”の成り立ちや今までの経緯の話を聞き、タッピングタッチを実際に施術してもらいました。その他、折り紙や童謡・ハンズベルなどいろいろなものを取り入れて活動していることを伺いました。

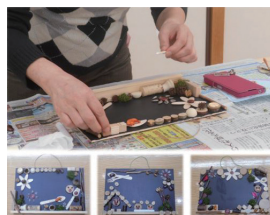
◆第3回『自分でできるリンパマッサージ』 フェイシャル編

顔の表情を明るくしてポジティブに活動できるよう、講師から一人ずつ丁寧に指導してもらいました。

◆第4回『カフェ風メッセージボード作り』

木の実や廃材等を利用してカフェ風メッセージボードを作りました。

参加者が活発に交流し、明るく楽しい雰囲気の中で創作活動が行われました。それぞれ素敵な作品が出来上がりました。



◆第5回『振り返りと交流会』

これまで活動してきた感想や思いなどを伺いました。また、今後のことについても活発に意見をいただき、次年度の事業企画や運営についても大変参考になるものでした。

成果と課題

ウェルネスという視点では、参加者は毎回の講座に対して大きな満足感を得ており、心身ともに健康な生活状態を保つことができています。参加者同士の交流も活発に行われました。また、「ほっこりサロン」の地域活動を伺った回では、地域との繋がりを意識し自分達も何か活動をしてみたいという意欲が見られました。今後、自分たちのこれまでの経験や講座で学んだことを、地域へ還元・活動できる人材をどのように育成していくかが課題となっています。

今後の展望

ウェルビーイングを目指して、より健康で生き生きと輝く人生を送れるように学びの場を提供していくとともに、地域コミュニティとの繋がりを深め、それぞれが地域で活躍できる人材に成長できるよう働きかけていきます。





事業概要

今年度も東北工業大学 環境サークル「たんぽぽ」のメンバーが中心となっています。地域の様々な方や同世代の仲間のつながりを広げていくとともに、若者の視点で地域振興のための企画を実践することで、自主的自発的に行動する力が身に付けられるよう、活動しています。



令和6年度の活動

1 ラジオプロジェクト

「FMたいはく」で年間3回の番組を担当し、様々な情報を発信しています。

【収録① 6月】

学生が自らゲストを探してきて、東北福祉大生と一緒にラジオ制作をしました。「みんなの大学自慢」というテーマのフリートークでは大いに盛り上がり、それぞれの大学の良さを比較しながら、どの大学も地域に密着しながら活動していることに気がきました。



【収録② 8月】

学生が企画した自主企画講座「秋保の自然を発見しよう」の概要を紹介するとともに、ゲストに招いた東北工業大学の吹奏楽部とそれぞれの「夏の思い出」をテーマにフリートークを楽しみました。

2 自主企画「秋保の自然を発見しよう」「秋の交流会」

「ネイチャークラフトの素材集めをしたい。」「太白区の自然を体感して子供たちに伝えられたら良いのではないか。」というアイディアからカワラバン菅原さんの協力の下、座学・体験の連続講座を行うことになりました。残念ながら天候に恵まれず、体験はできませんでした。今まで知らなかった名取川の新たな一面を学ぶことができました。



「同世代の交流を深めよう。」という、「つながりんぐ」の最大の目標に近づくために、「長町秋のフェスティバル」に参加した学生たちとの交流の時間をセッティングしました。自分たちでチラシの構成を考え、イベント内容を決めました。当日は進行も含め、最後まで自分たちの力で企画・運営を行いました。

3 フェスタプロジェクト

10月20日(日)の「長町秋のフェスティバル」、10月26日(土)の「ながまち交流フェスタ」でネイチャークラフトブースを出展。老若男女問わず、多世代の方が訪れ、松ぼっくりキーホルダー制作を楽しんでいきました。交流フェスタには市内の専門学校の子どもサークルや、ボランティアで他大学からの参加者もあり、学生間の交流を図ることもできました。



成果と課題

「企画力、実行力の向上」と、「同世代の学生間の交流促進」という、年度初めに立てた目標は達成できました。自主企画を通じ、企画し、実行するために必要な技術を得て、各プロジェクトで様々な世代と交流しながら実践してきたことでコミュニケーション能力を高めることができました。

今後の展望

今後は若者事業に参画する学生を個別のプロジェクトの参加だけに終わるのではなく、継続して事業に関わってもらえるようにそれぞれのプロジェクトがつながる取り組みをしていきたいと考えています。



事業概要

「太白おやじネットワーク事業」は、地域課題の解決に向けた事業を企画し、新たなネットワークの構築と、地域づくりに貢献できる人材を発掘・育成することをねらいとして活動しています。例年、各団体間の情報交換に加え、市内の小学校に在籍する児童とその保護者を対象としたイベント等を企画・実践しています。

【活動団体】

○TNO（富沢・長町おやじの会）×NYO（西中田・柳生おやじの会）

○八木山おやG7

（八木山小×八木山南小×金剛沢小×芦口小×向山小おやじの会）



令和6年度の活動



10月20日にJR長町駅前と太白区中央市民センターで行われた「長町秋のフェスティバル2024 ～キッズワールド～」にサポーターとして参加しました。太白おやじネットワークとしてはこのイベントに20年近く出店していましたが、今年度は学生を主体とした運営形態に変わったため、学生のサポーターというかたちで参加しました。百戦錬磨のイベント経験を生かし、迅速かつ確かなサポートにより学生を支援しました。延べ2,000人の参加者（親子が中心）を迎え、大盛況の中で活動することができました。



八木山中学校へ進学する子どもたち同士の交流や、将来の地域「人財」の育成という共通の目標を掲げ、5つの小学校のおやじの会と八木山市民センター、太白区中央市民センターが協働して10月19日に「八木山おやG7チャレンジ企画」を開催しました。学校が異なる参加者同士がチームになり、軽トラ綱引きやスポーツチャンバラ、ゴミ分別リレーなど、おやじ達による趣向を凝らした種目で記録を競うイベントを行い、参加者同士の交流を生み出しました。

成果と課題

各地域においておやじの会と各地区館が協働し、地域住民の交流の機会を創出することができました。また太白区中央市民センターを起点におやじの会同士の情報交換が行われたことで、互いの活動から多くのことを学び合うことができたようです。今後は、各地域において現役世代のおやじの会員を増やすことが課題です。拠点館としても、主に広報の面などで支援していきたいと思っています。

今後の展望



今後は、参加団体を少しずつ増やし「太白おやじネットワーク」の拡充を進めていきたいです。各地区のおやじの会の活動状況をリサーチし、積極的に取材や広報を行っていければと思っています。また、おやじの会に向けた広報のみならず、各市民センターや小中学校とおやじの会の連携・協働のあり方を具体的に提案していけるよう、持続可能で魅力的な事業運営のサンプルを立案したいです。



事業概要

令和2年度に立ち上がった自主運営組織「楽元の森運営委員会」と連携しながら、地域資源である楽元の森を整備・活用する事業の企画運営を行っています。人材の発掘や育成・スキルアップを図り、地域の活性化につながる人づくりを目指します。活動を通して、世代間交流を深め、人づくりにつながっていきます。



令和6年度の活動

6月22日「親子で巣箱をつくろう！」

※楽元の森に生息している野鳥の講話と、森に取り付けていた巣箱の観察、巣箱作りなどを体験しました。完成した巣箱はそれぞれ持ち帰りました。



9月21日「楽元の森でデイキャンプ」

※雨天のため、会場を山田市民センターに変更しました。テント設営や飯ごう炊飯、ポップコーン作りをしました。また、雨天プログラムとして木の実を使ったクラフト作りも行われ、盛りだくさんでした。



11月16日「ピカボードを作ろう！」

※ボードにLEDライトを挿すとピカッと光るピカボード。今年のデザインは「火の用心」です。講座「光と音楽のセレモニー」での点灯式ののち、太白消防署に展示されました。



11月23日「光と音楽のセレモニー」

※講座「ピカボードを作ろう！」で作ったピカボードの点灯式や楽元の森の紹介、ピカボードやランタンが光る中での演奏を楽しみました。上野山小学校が改築中のため、山田市民センターで開催しました。



成果と課題

企画会議や講座の運営に携わっている小中学生のキッズスタッフは令和5年度よりも増え、企画員の中でも異世代交流が広がっています。講座に参加した受講生からは「家ではできない貴重な経験ができました」、「大きくなったらキッズスタッフになりたいです」などの感想が寄せられました。会議や講座の日程等について今後検討していく予定です。

今後の展望

地域の住民同士が交流する機会を作れるよう、「楽元の森運営委員会」が、主体的に楽元の森の整備やイベント等の事業企画・運営を行ったり、地域の活動に参加したりできるよう、今後も継続して支援を行っていきます。

4月～11月(8月を除く)「企画会議」

※「楽元の森」で行う講座の企画や運営について話し合いました。



10月27日(日)「山田ふれあいまつり」

※楽元の森運営委員会のブースを出し、楽元の森での活動の紹介をしました。





事業概要

茂庭台地区の中心にある市民センター前広場に、地域住民が気軽に集まって交流することにより、「顔の見える関係」を深めることを目標に、企画員を中心として様々な事業を企画・実施しています。

令和6年度の活動

7月：「盆踊り練習会」「ゆかたの着付けサポート」
12月：「音楽と灯りのもにわだいフェス」
（第1部 コンサート、第2部 ライトアップ・たき火）
2月：「天空の広場 風あげ大会」



左の3大企画を行うために年間6回の企画会議を行っています。

【音楽と灯りのもにわだいフェス】12/21(土)15:00～20:00

●第1部：コンサート 15:00～17:30●

今回も、ヴァイオリニスト・東松島ふるさと大使の鹿嶋静さんをお招きしました。クリスマスソングなどの演奏に加え、参加者によるヴァイオリン試奏もあり、会場は大いに沸きました。また、茂庭台中学校吹奏楽部や四丁目バンド&ハートオブザカントリーとのコラボ演奏に加え、先に演奏を行った茂庭台児童館のハンドベル演奏を録音し、その音源を流しながら即興でヴァイオリン演奏をする、という離れ業も披露してくださいました。「演奏者も客席も真剣に聴いていたからこそ、きれいに録音できた。素敵な地域交流の場ですね」という鹿嶋さんのお話に、参加した子供たちも地域の方々もとても喜んでいました。最後は客席の皆さんも参加してカントリーダンスを踊り、大盛況の締めくくりとなりました。



●第2部：ライトアップ・たき火 17:30～20:00●

これまでのペットボトルランタンによるライトアップに加え、「仙台たき火ティー」代表：大石豊さんをお招きし、広場で「たき火」を行いました。寒空の下、たき火に引き寄せられるように、子供から大人まで多くの人が集まりました。お振舞いの飲み物や焼きマシュマロを手に、灯りを楽しみました。



成果と課題

今年の「音楽と灯りのもにわだいフェス」は、本講座史上最高だった昨年の記録に並ぶほどの来場者がありました。新しい取り組み「たき火」はとても好評で、火を囲みながら幅広い年代の交流が見られました。まさに、「広場を活用して顔が見える関係を深める」という本事業の目的が達成されました。一方で、新規企画員が少ないため、今後は特に若い世代や現役世代を中心に参加を働きかけていきます。

今後の展望

今後も多くの住民や施設との関わりを深め、企画員の主体的な取り組みを支援していきたいと考えています。さらに、「茂庭台をもっと元気にし隊」（小学生～高校生による企画講座）とのつながりなど、若い世代との交流も視野に、持続的な活動となるよう働きかけていきたいと思っています。



事業概要

富沢地域は宅地開発が進み、人口増が続いています。転入者が多く、とりわけ子育て中のミドル世代の人口が多いのが特徴です。そこで、富沢市民センターでは、町内会とミドル世代が協働してイベントを開催することを通じて、異年齢や団体間の交流及び地域活性化を推進する事業「パワフルとみざわネットワーク」に取り組んでいます。本事業では、一連の取り組みにより地域の担い手となる人材の育成を図ることも目的としています。

イベントは、地域資源「笹川」にちなみ「ざる川フェスティバル!」と命名され、通称「ざるフェス」として平成28年度から開催しています。



令和6年度の活動

「ざるフェス」は、コロナ禍の影響で2年間休止しましたが、令和4年度から再開し、今年度は7回目の開催となりました。

「ざるフェス」の目的は、「笹川愛を育む」「交流の輪を広げる」です。今年度は、笹川沿いの6町内会とTNO（富沢・長町地区おやじの会地域ネットワーク推進委員会）、各校の社会学級の代表者からなる実行委員会に、新たに中学生実行委員（富沢中学校生徒有志）が加わり、シニア世代・ミドル世代・中学生の3世代で企画・運営に当たりました。



内容は、ステージ発表・縁日・屋台・笹川スナップ写真（ざるスナ）展示・炊き出し訓練などに加え、今回は町内会による新笹川環境美化活動のパネル展示や中学生実行委員によるじゃんけん大会とスタンプラリーを実施しました。

10月27日のフェスティバル当日は、天候にも恵まれ、会場の大野田イコタ公園には、3千人を超える来場者があり、各コーナーでは子どもからお年寄りまで多くの方々楽しんでいました。中学生実行委員が企画・運営したコーナーも大盛況でした。ステージ発表では、小・中学生をはじめとする出演者に対し、たくさんの拍手や声援が寄せられ、会場が温かい雰囲気包まれていました。

成果と課題

地域の大人と中学生がイベント開催に向けて協働したことは、地域の絆を強めるとともに、ネットワークの更なる充実につながりました。また、この取り組みを通じてミドル世代が町内会活動に参加し、活躍する姿も見られるなど、本事業は活力ある地域づくりの大きな原動力となっています。今後は、更なる世代間交流を目指し、高校生やヤング世代を実行委員会に加えていく予定です。



今後の展望

「ざる川フェスティバル!」は、地域に根差したイベントとして、広く認知されています。富沢市民センターでは、持続可能なイベントとして発展していくよう、これからも多くの方々の知恵と力を結集し、工夫・改善を図っていきます。また、地域を担うリーダーが次の世代へと受け継がれていく体制づくりの充実に努めていきます。





事業概要

地域課題の解決やまちづくりの担い手である若者の「自分づくり」を社会教育的なアプローチを生かして支援すると共に、若者の学びの成果を生かした地域づくり活動等への参画を促進することにより、さまざまな人々と協働しながら身近な地域をより良くすることへの関心を高め、社会・地域の一員として自発的・主体的に行動できる人づくりを推進することをねらいとして事業を展開しています。泉区内に通学している大学生を中心とした参加者が地域の現状や課題について考え、学生の自由な発想で地域創造に向けて取り組みたいことを企画し、実施しています。

令和6年度の活動

今年度は、令和5年度「仙台市市民意識調査」報告書の結果を参考にして、仙台市や泉区が抱える現状を把握して、地域がより活発に活動することができるような取り組みについて検討してきました。「子ども」「健康増進」「支え合って暮らす」をキーワードとして、それぞれに対するアプローチを月に一度の定例会で話し合いました。仙台こども財団で行っている「こども・若者会議」への参加や、レクリエーション研修会を開催してアイスブレイクやニュースポーツについて学びました。また、地域のイベント会社を訪問し、マーケティングの手法などの専門的な分析方法を学んだり、こども家庭庁が開催した「こどもまんなかアクションリレーシンポジウムin 仙台」では学生レポーターに挑戦したりしました。このように、世代間の交流を図ることができるようなイベントの企画に関する学びを進めてきました。



成果と課題



たくさんの人との出会いによって、視野を広げたり、積極的に意見を出し合ったりしながら活動することができました。他区との若者交流会やレクリエーション研修会では、中学生や高校生との交流で新たな視点を持つことができました。また、イベント会社訪問では、営業だけでなく地域に対する貢献活動の取り組みなどについても説明を受けて、社会人として生きていく上で大事な心構えなどを学びました。地域の方々や世代間の交流を図るためには、まずは自分たちがいろいろな世代の方に出会い、お話を聞かせていただくという姿勢を大事にしながら活動を進めてきました。一方、区内で行われているイベントに日程が合わずに参加できなかったために、視野をさらに広げたり、地域の現状を知る機会を持てなかったことが課題となりました。

今後の展望

令和7年2月に開催するイベントに向けて、準備を進めているところです。参加してくれた方々が楽しいと感じ、世代間の交流が促進されるように工夫を重ねていきたいと思います。また、今年度は企画員が1名からスタートしたため活動がなかなか進められなかったことを踏まえ、来年度に向けては早めに広報活動を進めて、企画員を増やしていきたいと考えています。



まちを知る 七北田を歩く

ー地域いきいきプロジェクト



泉区中央市民
センター HP

事業概要

泉区中央市民センターの管内には、奥州街道の宿場町として1623年に始まった七北田宿があり、2023年で開宿400年となりました。その節目の年を迎えるにあたり、令和2～4年度まで複数年で「いずみ探訪ー地域案内人養成講座」を開催し、七北田地域の歴史資源を学んできました。その講座の受講生から発足した自主活動グループ「七北田探訪会」が案内人となって、令和5年度より本事業「まちを知る七北田を歩く」を開催し、奥州街道の宿場町だった歴史、史跡など古きを知ることで未来の自分たちのまちを考える機会となるようなまち歩きの講座を実施してきました。2年目となる今年度は、対象やコースを改善して、地域資源の価値を地域に広く伝えることを重視して実施しました。



令和6年度の活動

7月には、高校生を対象にまち歩きを実施しました。「七北田探訪会」の案内人が、自ら作成したガイドマップを基に七北田地域の史跡を案内しながら、1人1か所ずつ史跡についての講話を行いました。クイズ形式にしたり、具体的な例え話を入れたり、高校生にも分かりやすいように説明を工夫したことで、参加者は楽しく学ぶことができ、ガイドボランティアとしての実践力も磨くことができました。

9月には、新たに企画した山の寺洞雲寺コースのまち歩きを実施しました。5月に事前の下見をした際に、歩く距離が長く、思った以上に時間がかかったため、参加者の健康面と講座開催の時間を考慮し、片道をマイクロバス移動に計画し直しました。その結果、じっくり時間をかけて史跡の見学や解説をすることができ、内容の充実した講座となりました。参加者たちは、1300年前まで遡る洞雲寺の歴史の話に興味深く耳を傾け、熱心に資料を読む姿が見られました。



10月の市民センターまつりでは、館内の「泉・ふるさと生活ギャラリー」の展示物の紹介や自作の歴史紹介画像の解説など、来館者に対して案内人が熱心に語り掛けていました。

成果と課題

2回のまち歩き講座を実施するにあたり、毎月開催している「七北田探訪会」の定例会において、実際にまち歩きをしてのルートの検討やガイドの準備、講座後の振り返り等を行い、令和5年度よりもさらに分かりやすく、かつ参加者に興味を持って身近に感じてもらえる説明になるよう、実践と改善に取り組みました。その結果、参加者からは「地域の歴史を調べてみたいと思った」等の感想があり、地域への関心と愛着をより深めてもらうことができました。また、対象者に合わせて説明の内容や問いかけ方を工夫し、案内人同士で切磋琢磨しスキルアップすることもできました。

課題としては、若者対象の講座の参加者が少なかったこと、参加者から「もっと時間をかけて見たかった」との意見があったことがあげられました。対象者に合わせて広報の仕方を工夫し、スケジュールの組立を改善して、より多くの方が参加し満足してもらえるまち歩き講座を目指したいと考えています。

今後の展望

今後も「七北田探訪会」と連携して、さらに地域への関心が高まるきっかけとなるまち歩き講座を企画・実施していきたいと考えます。また、「七北田探訪会」の実践経験の場を設け、ガイドスキル向上及びガイドボランティアの増員に関する取り組みを支援し、これまでの学びを地域に還元し続けられる体制づくりを目指します。



かむりの里・子育てプレイス

ー地域いきいきプロジェクト



根白石市民センター
HP

事業概要

近年、根白石地区に移住する子育て世代が増加していますが、地域に子育て世代が活用できるコミュニティ活動等の取り組みが少ないことが地域課題となっています。

そこで、令和5年度は、子育て世代の企画員ならではの視点から、地域資源を活用した特色ある講座を実施しました。

令和6年度は、地域団体や地域人材からの更なる協力を得ることで、地域全体で子供たちの成長を支える共助意識の醸成を目指しました。



令和6年度の活動



7月「みんなで遊ぼうスポーツ鬼ごっこ」は、元ジュニアリーダーで県北スポーツ鬼ごっこ愛好会の方々が講師でした。子どもも大人も本気の鬼ごっこを通して地域交流・異世代交流がなされました。

2月に行った「ノージェネレーションフェスティバル」は、地域の小学生が、地域の中高生や大人と世代を超えて交流する場を持てるようにと願いを込めてネーミングしました。

当日は、ジュニアリーダーのゲームや中学生企画員のステージ発表、地域の特色を生かしたクラフトのワークショップ等で、小学生を楽しませるイベントを実施しました。

成果と課題

企画員は、本事業の対象となる子育て世代と同世代であるため、事業内容や広報において、そのニーズを効果的に反映することができました。

事業において、地域資源・人材を活用することで、若い世代がその魅力を知り、地域への愛着を深める一助となりました。

また、企画員は、活動を通して講座や組織の運営手法を学びながら地域団体・人材とのネットワークを構築することで、地域の子育てコミュニティの核となりつつあります。

今後の展望



企画員が継続して本事業の企画・運営に携わることで、地域を担う人材に成長することが期待されます。

講座の継続的な実施によって子育て世代や新旧住民同士の交流の輪を広げ、地域全体で子育てができる環境づくりにつなげていきます。

「発想力」と「発信力」に優れた企画員が、「ワクワク」する事業の企画・運営を通して、今後も地域づくりを牽引していきます。





事業概要

加茂地域では、地域の団体がそれぞれに交流を図りながら活発に活動を行っています。しかし、活動を牽引してきた人々の高齢化が顕著で、若い世代への継承、世代交代が喫緊の課題となっています。

地域には、若い世代も多く住んでいますが、仕事や子育てに忙しく、行事や活動に積極的に参加することは難しいようです。それでも子供たちのために何かをしたい、力になりたいという父親や母親は多数存在しています。この事業ではそうした若い世代の親たちが楽しく集い、子供たちのために講座の企画運営をし、地域の活性化に繋げていくことを目指しています。



令和6年度の活動



令和6年度は、複数年事業の2年目ということもあり、昨年度のアンケートや反省を基に、さらに地域の子どもたちが楽しめる場を作るにはどうしたら良いか話し合いを重ねました。「加茂フリーマーケット」から一歩踏み込んでステージ発表や子どもたちの体験コーナーを拡充し、企画名を「KAMO フェス」としました。昨年の課題であった開催時期を再検討し、広報は出演者・出店者からも積極的に発信を行いました。企画員の持つ様々な地域ネットワークを活用して友人・知人に協力を仰ぎながら、地域に世代を超えて新たなつながりが創出できるようなイベントを開催しました。

成果と課題

KAMO フェスの広報に関して、近隣の地域だけでなく区内の市民センターや児童館、さらには店舗等でもポスター掲示を依頼するなど、参加者が集まるように工夫しました。KAMO フェスには、21店の出店と4つのステージ出演など40名以上の方にご参加いただき、200名を超えるお客様が来場されました。過ごしやすい季節の開催、また広報の成果もあり、昨年より多くの親子連れでにぎわいました。参加団体同士が交流する場面も多く見られ、地域に新たなコミュニケーションの場を提供することができました。フリーマーケットや体験コーナー、ステージ発表を通して、世代を超えた参加者同士が交流し、地域のネットワーク作りにもつながりました。来年度以降は各コーナーのさらなる充実が課題と考えています。



今後の展望

「KAMO フェス」というイベントを通して、子育て世代をはじめとした地域住民が市民センターで交流を深め、ネットワークを広げる場を創出できました。今後はさらなる地域活性化を目指し、広く住民に対して本事業の活動を広報していき、隣接する地域の団体とも情報交換の場を設けるなどしながら、さらに活動を充実させていきたいと考えています。



事業概要

地域で高齢者向けサロンを主催する団体代表にお集まりいただき、団体や地域福祉に関する情報交換会や講習会、研修会や交流会を行います。これらの機会の提供を継続することにより、団体や担当者の情報共有や運営上の負担軽減、人材育成を目指し、住民とともに地域福祉に取り組んでいきます。



令和6年度の活動



拠点となるべき市民センターが大規模修繕工事ということもあり、参加団体の方に一堂に集まっていただくことができませんでした。年度初めにリニューアル作成した各団体の紹介パンフレットやお出かけマップを配架してもらうように、各サロンの活動拠点である地域のコミュニティセンターや集会所にそれぞれ出向き、内容を説明するとともに、各団体の現状の情報収集に努めました。収集した情報は、集約して各団体に共有をしています。

成果と課題

令和6年度で4年目の複数年事業となりますが、当初は同じ町内会で同じ様な活動する団体でありながら、お互いがどのような活動をしているか知らない場合もありました。現在では各団体の繋がりもでき、このことにより相互理解も進みました。この「つながり」により、各サロンが持っていた多くの悩みを軽減することができました。民生委員児童委員の方からは、引きこもりがちな高齢者にパンフレットを見てもらい、サロンへお誘いしやすくなったとの声いただきました。また、令和6年4月から新規開設した松陵地域包括支援センター様からは、その重要性を評価していただきました。しかし、高齢化に伴う担当者の人材不足は今後の課題です。



今後の展望



令和3年度から作成を続けてきた各サロンの紹介パンフレットとその団体の活動拠点をお知らせするお出かけマップ「つながる」は、地域での認知度も高まり、配布、配架したサロンや拠点から非常に有用で重宝しているとお声をいただいています。令和7年度は、従来のパンフレットやマップをリニューアルし、さらに主催者、利用者にとって使いやすい内容にしていきます。また、拠点の松陵市民センターの大規模修繕工事も終了するので、改めて各サロンの方たちに集まっていただき、地域の活動を支援する旨をお伝えし、令和7年度後半にはこの事業の集大成となる「サロンまつり(仮称)」を実施する予定です。

まち歩きをして地図を作ろう! 2024

ー地域いきいきプロジェクト



松森市民センター
HP

事業概要



松森・鶴が丘地域は、自然・歴史・文化資源が豊富にあります。しかし、地域住民の中には、これらの地域資源について知らなかったり実際に訪れたことがない人も多くいました。そこで、企画員がまち歩きをして地域の魅力を探訪し、それを発信する地図の作成を行いました。活動を通して、地域住民に地域の魅力を知ってもらうとともに、地域の案内人として活躍できるガイドボランティアの育成を目指しました。

令和6年度の活動

これまでの文献調査や現地調査の結果を基に企画員が協議を重ねて地図を作成しました。その地図を活用しながらまち歩きガイドとして活動できる人材を育成してきました。令和6年度は「ガイドボランティア講習会」として、社会福祉協議会の方や他地域のガイドボランティアを講師として招き、まち歩きボランティアの概要や心得、ガイドの際の注意点を学びました。また、市民センターまつりでは、ブースを設けて松森・鶴が丘地域の各所を取り上げ、地域の魅力を発信するとともに、活動のPRを続けてきました。



成果と課題



これまでの調査を基にして作成した地図の配布によって、地域住民の方々が身近な地域のことを知るきっかけとなったり、歴史的・文化的なことに興味を持ったりするようになりました。また、地域の学校へも地図を提供することで、若い世代が地域の良さに目を向け、地域について学ぶ際の資料として活用されることが期待できます。今後も、実際に現地を訪れた人が地域の魅力をより深く学ぶことができるように、地域情報の発信を続けていきたいと考えています。

今後の展望

今年度は、企画員がガイドボランティア講習会で学んだことを生かした活動を通してガイドボランティアとしてスキルアップを重ねてきました。今後は更に企画員がガイドボランティア活動の幅を広げるとともに、独立した団体として地域貢献していくことが期待されます。また、松森・鶴が丘地域の自然・歴史・文化資源を訪れ、触れる人が増えていくことで地域の活性化につながると考えています。



●市民が企画し、活躍するカタチは、さまざまなものがあります。

子どもが！

- ◆子ども参画型社会創造支援事業※
- ◆ジュニアリーダー

など

大人が！

- ◆住民参画・問題解決型学習推進事業※
- ◆市民企画講座

など

若者が！

- ◆若者社会参画型学習推進事業※
- ◆住民参画・問題解決型学習推進事業※

など

ボランティアとして

- ◆図書ボランティア
- ◆託児ボランティア
- ◆地域ガイドボランティア

など

※世代に応じた「市民参画型の講座」の事業名です。

みなさんも、ぜひ仲間になって 市民センターで活動を楽しみませんか？

仙台市市民センター子ども・若者・大人事業
成果報告会を令和7年1月19日に仙台市生涯学
習支援センター6階体育館で開催しました。

様々な「まなびのカタチ」について知る機会とし
て、市民参画型の講座を中心に、各市民センターで
の特色ある取り組みをステージ発表やポスターで
紹介しました。例年1月に実施しています。



「まなびのカタチ」は他にも…。

仙台市生涯学習支援センターでも、様々なまなびが行われています！

学びのまち・仙台 市民カレッジ

「仙台再発見講座」「持続可能な地域づくり講座」「学びのオーガナイザー養成講座」「市民プロデュース講座」など、多種多様な講座が年間を通じて実施されています。



障がいのある人もない人も共に学ぶ ミンナシテマザール

障がいの有無にかかわらず、同じ時間、同じ場所で一緒に学ぶ場です。身体を動かしたり、工作をしたりと、様々なプログラムが実施されています。

ジュニアリーダー育成支援

ジュニアリーダーの資質向上を目的に、中級、上級、実践研修会を実施しています。

※ジュニアリーダーとは、青少年ボランティア活動の一環として教育委員会の支援を受けて活動している、中学生・高校生のことです。仙台市内では425名の中高生が登録しています。(令和6年度末)



生涯学習支援センターの取り組みについては、こちらをご覧ください。

仙台市生涯学習
支援センター
ホームページ



仙台市生涯学習
支援センター
Instagram



市民センターには、今回ご紹介した講座以外にも、**市民の皆さんが主人公になる講座**がたくさんあります。詳しくはお近くの市民センターまたは仙台市生涯学習支援センターにお問い合わせくださるか、市民センターホームページ等でご覧ください！



仙台市市民
センター
ホームページ



仙台市市民
センター
Instagram



YouTube
「仙台市市民センター」
チャンネル



~きつと笑顔の花が咲く~



令和7年
3月発行

企画・編集・発行 仙台市 生涯学習支援センター

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-1-8

TEL 022-292-4875 ■ FAX 022-295-0810